

令和元年度 指定管理者点検結果

施 設 名	玉野市障害者地域活動支援センター「こころの里」
所 在 地	玉野市宇野 1 丁目 8 番 8 号
指 定 管 理 者	名 称 特定非営利活動法人 円い空 代表者 理事長 青井 一展 住 所 玉野市宇野 1 丁目 8 番 8 号
指 定 期 間	平成 3 1 年 4 月 1 日 ～ 令和 6 年 3 月 3 1 日（5 年間）
担 当 部 課	健康福祉部 福祉政策課 電 話 0 8 6 3 - 3 2 - 5 5 5 6 E-mail fukushi@city.tamano.lg.jp

評 価 内 容 の 総 括	総 合 評 価
施設管理、運営等の実施状況等 全体的に良好な指定管理が行われている。 * 行数は適宜調節してください。	A

■「総合評価」の評価基準

- S（優 良） 次の 3 項目の評価結果が全て A 以上であり、かつ S が 2 つ以上である。
- A（良 好） 次の 3 項目の評価結果が全て A 以上である。
- B（課題含） 次の 3 項目の評価結果に B が含まれている。
- C（要改善） 次の 3 項目の評価結果に C が含まれている。

① 業 務 の 実 施 状 況	評 価 結 果
【適切な施設管理の履行】 障害者地域活動支援センターとして、障害のある利用者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう必要な支援が行われた。 【法令等の遵守】 法令等を遵守し、適切な施設運営が実施された。 【安全性の確保】 セキュリティ・消防業務等の専門的な業務は、委託業者を用いながら適切に実施されている。 【財産の適切な管理】 維持管理は適切に実施されている。 【利用状況】 年間平均利用者数は、平成２８年度以降、年々増加している。 【コスト削減への方策】 コスト削減については、支出の８割が人件費関連の支出で、日頃からコスト削減の努力がされており、これ以上のコスト削減は見込めない。	A
② サ ー ビ ス 向 上 へ の 取 り 組 み	評 価 結 果
日常の相談援助業務及び地域交流等イベント等を継続し、サービスの維持向上に取り組んでいる。	A
③ 団 体 の 経 営 状 態 （ 経 営 の 健 全 性 ）	評 価 結 果
相談支援事業対応件数増加による、計画相談給付費収益増等により、経営努力を行っており、黒字経営を継続している。	A

■「評価結果」の評価基準

- S（優 良） 協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である。
- A（良 好） 協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った内容である。
- B（課題含） 協定書等の基準を概ね遵守しているが、内容の一部に課題がある。
- C（要改善） 協定書等の基準が遵守されておらず、改善が必要な内容である。

I 業務の実施状況に関する事項

1 管理体制の状況

(1) 指定管理業務の実施体制図（外部委託先を含む）

別紙「組織体制図」のとおり

(2) 人員配置状況

施設長 1名（相談支援専門員 他事業所管理者 兼務）

精神保健福祉士 4名（常勤専従2名、常勤 相談支援専門員 兼務1名、非常勤・他事業所 兼務1名）

支援員（非常勤）1名

※常勤換算3.8人

2 施設・設備の維持管理業務の実施状況

・建物・設備の保守管理業務

建物の老朽化が進んでおり、随時所管課と協議しながら補修等を依頼している。今年度の修繕箇所は無かった。

消防設備・電気設備の保守点検は外部に委託して行っている（岡山県備前県民局建設事務所・宇野港管理事務所、玉野市地域包括支援センターと合同）。

・清掃業務

経費節減の観点から、通常の清掃は職員にて行っている。

屋外の植栽の手入れなどは年2回、利用者有志・利用者家族・支援ボランティアの協力を得ながら行っている。

年1回外部業者に委託し、床のワックスがけ等を行っている。

・警備業務

警備・保守管理は外部に委託して行っている（岡山県備前県民局建設事務所・宇野港管理事務所、玉野市地域包括支援センターと合同）。

・駐車場管理業務

岡山県備前県民局とも協議の上、利用者用駐車スペースを4台分確保している。

公用車及び職員通勤車両は行政財産使用許可を得て敷地内の駐車場を借用している。

3 利用等の許可の状況

原則として玉野市在住の精神科、心療内科等専門医に定期通院する方を利用対象とし、利用契約時に主治医より「情報提供書」を得ている。

利用者状況は、別表「令和元年度 利用契約者状況」参照のこと。

II 施設の利用状況に関する事項

1 施設・設備の利用状況

・利用許可の総件数、各施設・設備ごとの利用許可（不許可）件数

・利用者名、利用日時、利用目的、参加者数 等

別表「令和元年度 利用契約者状況」のとおり。

Ⅲ 自主企画事業の実施に関する事項（協定書に追加した事項等）

1 イベント名、内容、参加者数、収支状況 等

別表「令和元年度 利用契約者状況」および「地域交流活動推進事業実施報告書」のとおり。

Ⅳ 料金収入の実績及び管理経費等の収支状況等

1 利用料金の収入及び減免の状況

（１）利用料金の収入総額、各施設、設備ごとの収入額 等 該当なし。

（２）減免の総額、各施設・設備ごとの内訳、減免理由 等 該当なし。

2 管理に係る収支の状況

（必要に応じ詳細な収支報告書を作成すること）

（１）収入

項 目	金 額	備 考（内訳など）
利 用 料 収 入	0	
指定管理料収入	17,000,000	
そ の 他 収 入	5,050,031	計画相談給付費、寄付金、他
収 入 合 計	22,050,031	

（２）支出

項 目	金 額	備 考（内訳など）
人 件 費	18,650,552	従業員給与、法定福利費及び福利厚生費
光 熱 水 費	296,322	
委 託 料	333,354	保安委託料、電気設備・消防設備保守委託料、他
事 務 費	370,665	事務消耗品費、車両燃料費
修 繕 料	7,010	公用車定期点検費用、他
保 険 料	47,350	しせつの損害保険、公用車車両保険
租 税 公 課 （事業所税を除く）	12,512	印紙代、登記事項証明書発行手数料、他
そ の 他	1,731,988	外部講師等報償費、広告宣伝費、印刷製本費、通信費、備品消耗品費、支払手数料、新聞図書費、他
事業所税相当額	0	
消費税相当額	0	
支出合計	21,449,753	

V 自己点検結果

自己点検の方法、結果、改善方法 等

随時各職員により観察を行い、不具合が生じた際などは所管課と協議の上、軽微なものについては職員にて修繕等を行っている。業者に修理を依頼する場合や支援ボランティアの協力を得ることもある。

今年度は消耗品の交換程度のみであった。

VI 経費節減・サービス向上に関する取組み

日頃より、各職員の省エネ意識を高め合い、節電・節水に努めるとともに、利用者の皆さんにも省エネに対する意識をもって頂けるよう、各職員で働きかけを継続している。

地域活動支援センター事業においては、従来からの行事・地域交流普及啓発事業を継続した。地域交流普及啓発事業においては、参加者が前年を上回り、成果を上げることができたと言える。定例の行事・活動についても、ボランティアの方々の支援を受けながら継続しているところであるが、今年度をもって活動を終えたものあり、支援いただくボランティアの高齢化という課題もある。また、参加者の実数という面では引き続き変動があるが、地域において通所系の障害福祉サービス等が拡充する中で、利用者の通所先の選択肢の一つとして一定の支持が得られていることは前向きにとらえている。

相談支援事業においては、年々高い件数で推移しているが、当センターで対応できる上限にほぼ達しており、今後新規の利用者をどこまで受け入れることができるかは不透明となってきた。

今年度の利用者状況の内訳としては、通所利用数は増加傾向にあり（平成30年度のべ平均14.3名に対し、令和元年度のべ平均14.7名）、電話相談件数も引き続き増加傾向にある（30年度のべ4,110件に対し、令和元年度のべ4,989件）。I型支援センターとして「訪れる方を迎え入れる支援」の質を維持・向上させ、相談支援事業との両立を図ることが継続課題と考えられるが、通所利用者数も回復基調が続いており、一定の成果を上げることができた。

VII その他

利用者の当事者活動の在り方について、各利用者の主体性を高めることや、利用者が相互に支え合う姿勢などを醸成することを促すような活動の在り方を引き続き模索していきたいが、年々参加者が減少傾向にあり、利用者の意向を尊重しながらも何らかの方策を講じる必要が考えられる。

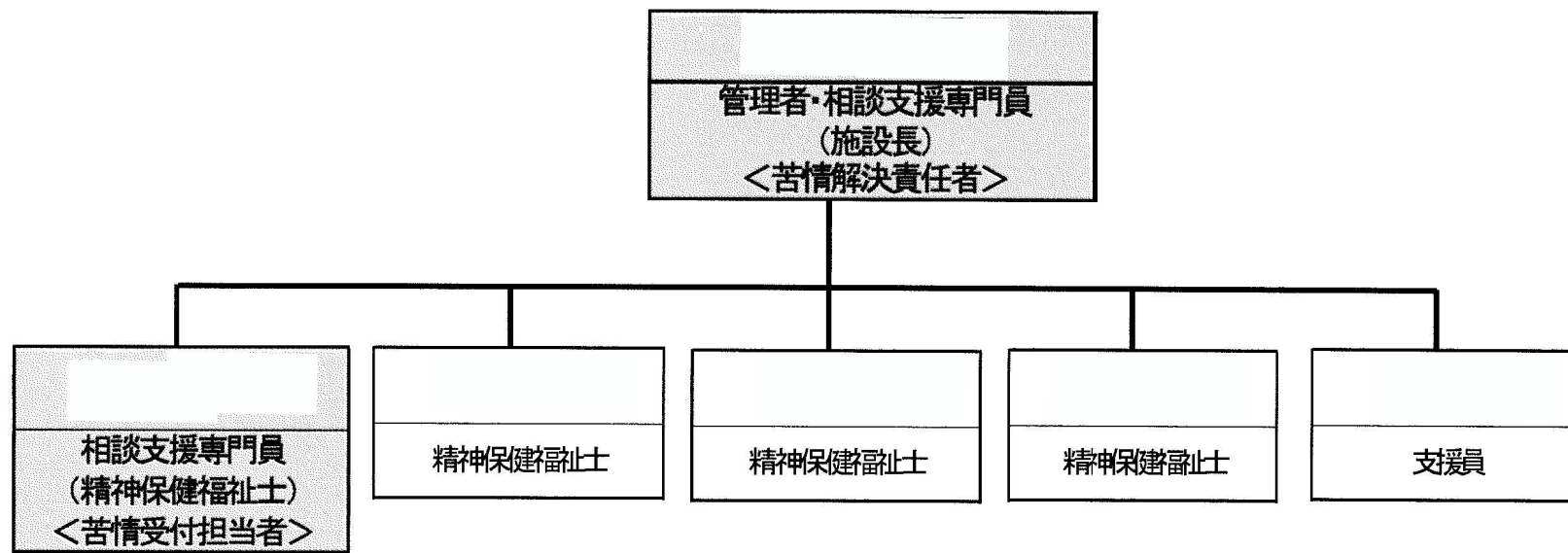
玉野地域の公認の精神障害者家族会が解散してから数年が経過している現状にかんがみ、一昨年度より家族支援事業の強化を図っているところであるが、「家族サロン」参加者拡大までには至らず、また、多くの家族が高齢となる中、感染症拡大防止の観点からも、当面活動は休止せざる

るを得ないと判断している。

引き続き対応すべき課題は多いが、新規利用者は一定数あり、「安心して過ごせる居場所の提供」、「憩える場の創造」という支援センターの基本ベースを安定・定着させることのできた一年間であったと総括する。引き続き相談支援の充実を図りながらも、通所した利用者がそれぞれの居場所として、「もう一度来たい」、「長く利用したい」、一度は遠のくことがあったとしても「再び戻りたい」と感じてもらえる雰囲気作り、電話相談での対応を含む「関わり」の質の継続的な向上を目指していきたい。併せて、引き続き地域の精神保健福祉増進に寄与することを第一の課題としながらも、業務の優先順位の整理も図り、資源の有効活用についても検討・実行していきたいところである。より長期的な視点をもって諸課題に取り組む体制を整え、職員の一層の研鑽に努め、利用者・家族・地域の関連機関・市民より支持される支援センター像の一層の深化を目指していきたい。

地域活動支援センター こころの里

組織体制図 （地域活動支援センターⅠ型・指定特定／一般相談支援事業所）



※ 網掛け部分を指定相談支援事業所職員とし、()内の職種を兼務する。

令和元年度 利用契約者状況 (令和2年3月31日現在)

表1. 開所日数・利用契約者・相談事業利用状況

開所 日数	契約利用 者数	新規契約		契約解除者		利用者数(来人数)			一人 平均 (日)	利用者数(のべ)			一日 平均 (人)	相談状況											面接 相談	電話 相談	同行・ 訪問	サロン	夜間 電話 件数	夜間電話件数			家族	見学・ 来訪者
		男	女	男	女	総数	男	女		総数	男	女		総数	人間関係	生活困窮	仕事関連	病気・薬	施設利用	福祉制度等	その他	18:00～	18:00～ 20:00	20:00～										
4月	20	308	0	2	0	1	135	94	41	4.0	537	329	208	28.9	520	12	240	30	13	118	108	1	143	332	45	51	3	1	2	0	31	50		
5月	18	309	3	1	0	1	102	63	39	5.4	555	335	220	30.8	621	8	248	25	18	188	132	2	116	452	53	47	0	0	0	0	25	50		
6月	21	318	5	4	0	0	116	67	49	5.5	643	395	248	30.6	625	12	302	34	13	150	113	1	118	458	51	50	0	0	0	0	35	104		
7月	21	320	3	0	1	0	104	63	41	5.7	592	380	212	28.2	635	10	322	24	25	124	128	2	127	454	54	48	1	0	1	0	33	58		
8月	21	322	0	3	1	0	101	80	41	5.9	595	381	214	28.3	634	3	329	25	19	137	120	1	142	447	45	30	0	0	0	0	27	47		
9月	19	324	0	3	0	1	103	54	49	5.6	572	350	222	30.1	585	10	267	31	17	145	115	0	88	434	53	44	1	0	1	0	26	43		
10月	20	329	3	2	0	0	103	63	40	5.8	593	368	225	29.7	570	12	280	33	23	134	88	0	93	437	40	30	0	0	0	0	33	143		
11月	20	332	3	0	0	0	110	67	43	5.5	602	387	215	30.1	587	14	289	24	14	122	123	1	112	427	48	43	1	0	1	0	35	43		
12月	20	333	1	1	0	1	108	67	39	5.9	630	405	225	31.5	625	13	318	22	27	141	101	5	145	444	36	55	1	0	0	1	39	72		
1月	19	336	2	2	1	0	107	87	40	5.0	535	334	201	28.2	528	8	278	22	9	125	87	3	115	373	40	55	1	0	1	0	25	42		
2月	18	337	1	0	0	0	99	58	41	5.4	537	340	197	29.8	453	4	220	35	3	105	85	1	94	334	25	37	0	0	0	0	19	42		
3月	21	339	2	2	1	1	109	65	44	5.2	565	368	199	28.9	532	8	248	29	4	127	118	2	79	397	56	33	1	0	0	1	19	40		
合計	238	339	23	20	4	5	-	-	-	-	8,956	4,370	2,586	29.2	8,915	110	3,335	334	185	1,814	1,318	19	1,380	4,989	548	521	9	1	6	2	347	732		
平均	19.8	-	-	-	-	-	107.9	65.7	42.3	5.4	579.7	384.2	215.5	29.3	578.3	9.2	277.9	27.8	15.4	134.5	109.8	1.6	115.0	415.8	45.5	43.4	0.8	0.1	0.5	0.2	28.9	61.0		

表2-1. 生活支援事業参加状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
料理教室	3	-	8	-	2	-	6	-	7	-	-	-	28	5.2
手芸教室	4	-	-	-	3	-	2	-	3	-	3	-	15	3.0
カレーの日	9	-	12	-	9	-	10	-	20	-	12	-	72	12.0
餅の日	-	6	-	5	-	3	-	4	-	4	-	3	25	4.2
絵手紙講座	2	2	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	33	2.8
入浴・トイレの介助(大人数含む)	2	4	4	-	3	2	3	3	8	5	1	2	37	3.4
ソフトバレーボール	11	11	4	4	7	5	4	8	4	3	4	2	87	5.6
のど自慢会	8	7	7	10	8	4	8	7	-	5	2	6	70	6.4
シフトワーク・キ作り	5	8	5	8	7	6	5	5	4	10	-	4	67	6.1
リフレッシュ教室	3	-	2	3	2	3	3	4	5	5	3	2	35	3.2
合唱の日	-	5	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	11	5.5
パソコン教室	4	1	2	2	1	3	1	4	4	2	1	1	26	2.2
ペーパークラフト教室	2	1	2	0	3	1	1	3	2	0	2	-	17	1.5
ランチの日	-	14	-	12	-	10	-	10	-	11	-	13	70	11.7
ぜんざいの日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	13	13.0
きなこもちの日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	9	22	11.0
合計	53	59	49	53	45	40	48	51	60	61	44	45	606	96.6

表2-2. 当事者活動参加状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
めばるの会	4	4	3	10	3	5	7	9	14	6	3	3	77	6.4
距離結末の会	4	6	-	5	-	6	-	6	-	7	11	6	51	6.4
合計	8	10	3	21	3	11	7	15	14	13	14	9	128	10.7

表2-3. ボランティアよりの支援状況(参加ボランティア数:延べ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
植栽ボランティア	4	4	4	4	4	4	5	4	3	4	2	4	45	3.8
カレーの日	2	-	1	-	3	-	2	-	2	-	2	-	12	2.0
料理教室	2	-	0	-	2	-	2	-	2	-	-	-	8	1.8
手芸教室	1	-	-	-	1	-	1	-	1	-	1	-	5	1.0
絵手紙講座	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	10	0.8
ソフトバレー	4	2	4	4	2	3	0	2	0	5	4	-	30	2.7
シフトワーク・キ作り	5	4	5	5	5	5	5	2	4	3	-	1	44	4.0
リフレッシュ教室	1	-	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	12	1.1
合唱の日	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1.0
ランチの日	-	5	-	4	-	4	-	3	-	5	-	4	25	4.2
その他	0	0	0	1	1	0	20	0	27	0	4	-	53	4.8
合計	20	17	16	21	20	18	37	12	41	19	15	11	247	20.6

表2-4. 家族支援事業参加状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
家族サロン	4	-	3	3	-	3	-	-	-	0	-	-	13	2.6
家族の集い	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	6	6.0
合計	4	0	3	3	0	3	0	6	0	0	0	0	19	1.8

表3. 世帯構成(人)

	家族と同居	一人暮らし	その他	合計
男性	145	42	8	195
女性	110	25	9	144
合計	255	67	17	339
%	75.2	19.8	5.0	100.0

表4-1. 年代構成(人)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	18	32	55	38	40	11	1	195
女性	8	27	40	30	24	12	3	144
合計	26	59	95	68	64	23	4	339
%	7.7	17.4	28.0	20.1	18.9	6.8	1.2	100.0

表4-2. 利用者平均年齢(歳)

	平均年齢	前年度比
男性	49.08	+ 0.06
女性	49.38	+ 0.55
全体	49.44	+ 0.27

※地域交流事業含む

地域交流活動推進事業実施報告書

【 サロン・コンサート 】

開催日時	令和元年 6月 29日 (土曜日) 13時 ～ 15時
開催場所	サロン・調理場 他
参加人数	利用者：20名 由良病院患者1名 病院関係者：1名 家族会：1名 利用者家族：2名 登録ボランティア：7名 一般：20名 奏者：5名 職員：6名 実習生：1名 合計：64名
内容	【 サロン・コンサート 】 《 目的 》 日頃、あまり体験できない生の演奏をとおして癒しの場を提供するとともに、演奏後の交流会により精神障害者（利用者）と地域住民が触れ合う機会を設けることで、お互いの理解を深めることを目的に開催した。また、当センターを広く地域住民にPRする機会として活用することも併せて目的とした。 《 内容 》 岡山クラリネットアンサンブル“デュナ”より5名の奏者をお招きし、「“クラリネット”でエンジョイ！パパからもらった～♪」と題して1時間程度の演奏会を開催した。交流会では、前日に利用者が家族会・登録ボランティアの協力で手作りしたシフォンケーキを提供した。参加者より300円の会費を徴収した。 《 反省及び課題など 》 ・今年度は利用者さんの参加人数が20名となり、これまでのコンサートの中で一番多く参加して下さった。 ・全体の参加人数は52名（奏者・職員除く）で、昨年度と比べると20名ほど少ない人数であったが、来場された方皆さんが会場内に入って演奏を聴くことができた。交流会は最大42名までの受付だったが、数日前の時点でほぼ埋まっていたため一般の方は演奏会のみでお断りすることになった。当日来られる利用者さんの分も考えて、前日までに予約人数を切り上げる必要がある。 ・会場入口から遠い座席に空きがあったため、手の空いた職員が誘導して、奥から詰めて座ってもらうようにする。 ・コンサートは皆さんがよく知っている、馴染みのある曲を選んで下さったので、楽しんで聴いて下さり、素晴らしい演奏会になったと思われる。交流会も質問や感想が多く出て、雰囲気もよかった。 ・一般の参加者が多い事を見越して、包括支援センターの車を移動してもらった。満車まではいかなかったものの、皆さん余裕をもって駐車されるため、来年度以降も車の移動をお願いするようにする。

地域交流活動推進事業実施報告

【 サロン・コンサート 】



「“クラリネット”でエンジョイ！パパからもらった～♪」



客席の様子



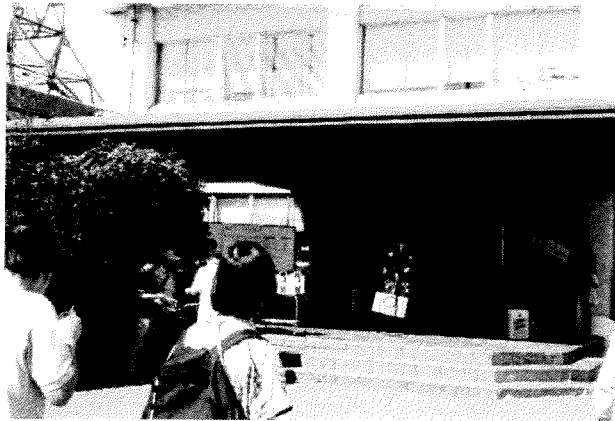
交流会

地域交流活動推進事業実施報告書

【 こころの里まつり 】

開催日時	令和 元年 10月 5日（土曜日） 11時15分 ～ 14時30分
開催場所	駐車場 他
参加人数	利用者：34名 家族会：3名 運営ボランティア：26名（岡山メンタル友の会、個人登録ボランティア、社協ボランティア） 出演ボランティア：39名（玉野フォークダンスクラブ、玉野高校ダンス部） その他：19名 職員：5名 ／合計：126名
内 容	《 目 的 》 地域との交流と、こころの里の活動を知っていただく事を目的に、利用者・家族・各種ボランティア団体・地域住民の方と共に、毎年の恒例行事として祭りを開催している。 当日は参加者が、模擬店・カラオケ・クイズ大会・ステージの催し・フォークダンスなどを通じ、楽しく気軽に交流し、お互いの理解を深め合う。 当事者会による出店やステージ出演を募集し、利用者が積極的に行動し、達成感を味わえる場となることを期待する。 学生にステージ出演を呼び掛けて、若者に対し精神障がいへの理解や支援の啓発の機会としたい。 《 内 容 》 今年は天気に恵まれ、屋外で開放感のある祭りとなった。日頃から支援していただいているボランティアの協力による各種模擬店（カレー・うどん・おでん・かき氷・ジュース・ネギ焼等）や地域の作業所からの応援出店で、来場者には食事や買い物を大いに楽しんでいただいた。今年も当事者会「めばるの会」のメンバーが家族会「さくらんぼの会」と一緒に模擬店の販売を担当した。 ステージの催しは、恒例ののど自慢大会と全員による合唱で良い雰囲気スタートを切り、クイズ大会やじゃんけん大会では、こころの里で用意した景品の争奪戦で盛り上がった。 今年の見玉は玉野高校ダンス部によるパフォーマンスで、総勢20人の高校生たちによるはつらつとしたダンスに元気をもらった。フィナーレは恒例のフォークダンス。玉野フォークダンスクラブの方に教えていただきながら利用者らが踊りの輪に入り、今年は高校生も加わってさらに大きな輪になり、華やかに最後を飾ることができた。すべてのプログラムを無事実施することができ、今年も充実した内容だった。 《 反省及び課題など 》 ・好天のお蔭もあり利用者の人数は昨年より微増。久しぶりの顔にも会える貴重な機会となっている。 ・今年も多くのボランティアの方が6月の企画会議に始まり、前日の準備から当日の後片付けまで関わって下さった。初めて社協ボランティアをお願いしたところ9名もの方が参加して下さい、大変心強かった。 ・久しぶりに学生の出演が叶った。今後も参加を呼び掛けていきたい。 ・今年は利用者のステージ出演に応募がなかったのが残念だった。

地域交流活動事業実施報告
【こころの里まつり】



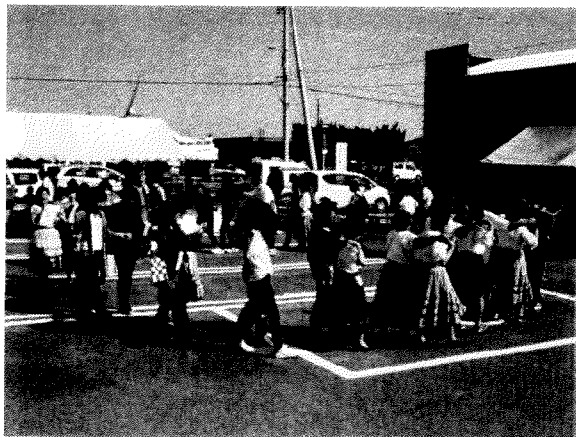
○×クイズ王選手権



じゃんけん大会



ダンスパフォーマンス
(玉野高校 ダンス部の皆さん)



フォークダンス
(玉野フォークダンスクラブの皆さん)

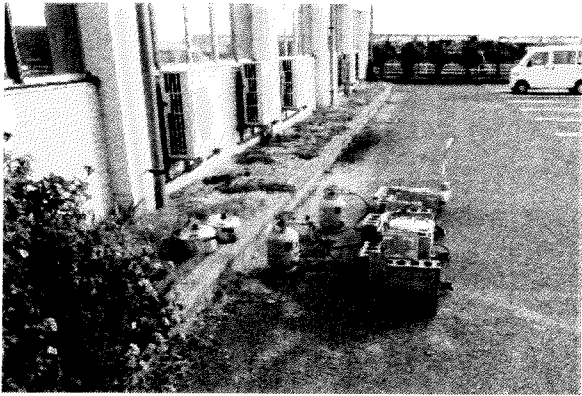


ボランティアの皆さんによる
模擬店

地域交流活動推進事業実施報告書
【お餅つき交流会】

日 時	令和元年 12 月 21 日（土曜日）10 時～12 時 30 分
場 所	こころの里 サロン・調理場 他
参加人数	利用者：24 名 家族：3 名 ボランティア：18 名 さくらんぼの会（家族の会）：2 名 福祉政策課：5 名 職員：6 名 ／合計 58 名
内 容	【お餅つき交流会】 《 目 的 》 季節の行事である餅つきを通して、精神障害者（利用会員）と地域ボランティアがふれあい、協力しあうことにより、お互いの理解を深める。 《 内 容 》 男性利用者・男性ボランティアを中心に協力して、9 臼（鏡餅・持ち帰り用丸餅・お手入れ用）の餅をつき、女性利用者・女性ボランティアは館内にて、お餅作りと昼食の準備を行う。参加者全員で、ついたお餅と豚汁を昼食としていただきながら交流を図る。 利用者より 300 円の参加費を徴収し、年始用のお餅を持ち帰っていただく。 《 反省及び課題など 》 ・今年天候にも恵まれ、前年度より 6 名多い 24 名の利用者さんが参加して下さった。ボランティアの方の数も前年より 2 名多く、賑やかなお餅つきとなった。 ・今年火の守を 3 人に増やし、もち米の蒸し加減をよく見て頂いたため 9 臼全てきれいな餅に仕上がった。次々と蒸しあがるためガスの数を減らすことも検討したが、蒸し始めの時間を少しずらすことで例年のままでも幾分か時間に余裕をもって始めることができた。 ・昼食のお手入れ餅をその場で食べきれずに持ち帰るボランティアの方がみられるため、盛り付ける数を減らして食べきれ分のみ余りを取ってもらう形にした。また、今まで黙認していたボランティアの方の持ち帰りも今年度から不可にし、その旨を説明した。 ・今年もノロウイルス感染予防のため、餅に触る人はキャップとマスクと手袋、餅をつく人はマスクをつけて頂き、衛生対策に充分注意した。

地域交流活動事業実施報告
【お餅つき交流会】



もちつき準備



開会式



餅つき



お手入れ餅



餅作り



食事風景

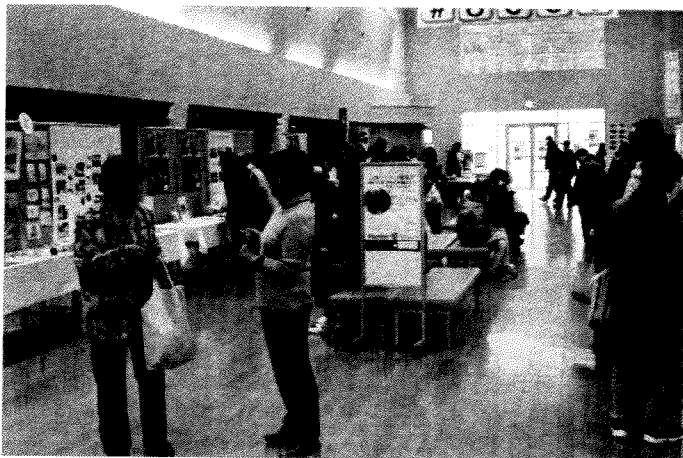
地域交流活動推進事業実施報告書
【玉野こころの講演会・こころの健康展】

開催日時	令和 2年 2 月 15 日 (土) 11時30分 ～ 15時30分
開催場所	すこやかセンター（玉野市総合保健福祉センター）
参加人数	利用者、家族、地域ボランティア、一般、スタッフ（実行委員） ／合計：201名
内 容	《 目 的 》 広く一般市民を対象とし、精神保健福祉について少しでも多くの方々の理解を得る機会となるよう、講演会を開催し啓発活動を行う。関係機関と協力し「玉野こころの健康を考える会」として活動を展開することで精神保健医療福祉に携わる関係者のネットワークを築いていく。また、精神医療・保健・福祉の社会資源を広く地域住民にPRする機会としても活用していく。 《 内 容 》 今年のテーマは「生きづらさを越えて」～ひきこもりを語る～とし、山本昌知先生を聞き手に、ひきこもり経験者の方2名にご登壇いただき矢田初恵氏の進行で体験を語っていただいた。赤裸々に語られたお二人の辛い過去や、乗り越えたきっかけ、現在の活動のお話、そしてお二人の物語を包み込むような山本先生の言葉に涙される来場者もおられた。話を聴くこと、寄り添う事の大切さを多くの方がアンケートに書き留めておられた。3回シリーズとして「ひきこもり」を講演会のテーマにしてきたが、3回目として一旦区切りをつけるにふさわしい内容であった。 合唱は、玉野少年少女合唱団に参加していただき、手話を交えながら美しい歌声を披露して下さった。全盲の少女の詩を歌にした『空とぶうさぎ』は講演会の内容に添うすばらしい選曲だった。お馴染みの曲には来場者も声を合わせ、温かい雰囲気での講演会を締めくくった。 エントランスホールで同時開催の「こころの健康展」では、関係機関による飲食コーナー、販売コーナーで来場者に買い物も楽しんでもらい、展示ブースでは、参加団体の作品展示や社会資源の紹介を行った。 《 反省及び課題など 》 来場者数は前年比3割増、また来場者アンケートのボリュームや内容から多くの方の心に響く講演会であったと確信する。精神科医山本昌知先生の実績やお人柄による来場者が少なからずおられたことは間違いないが、期待にお応えできた講演会であったと思う。来年はまた、多くの方に伝えるべき新たなテーマを話し合い、玉野の医療および精神保健福祉に関する普及と啓発につながるよう、取り組んでいきたい。

地域交流活動事業実施報告 【こころの講演会】



対談『生きづらさを越えて』～ひきこもりを語る～



こころの健康展



合唱

【書式例 5-4】

令和元年度 指定管理者自己点検結果

点 検 日	令和2年 3月 30日 (1回目)
施 設 名	地域活動支援センター こころの里
所 在 地	玉野市宇野一丁目8番8号
指 定 管 理 者	名 称 特定非営利活動法人 円い空 代表者 理事長 青井 一展 住 所 玉野市宇野一丁目8番8号
指 定 期 間	平成31年 4月 1日 ~ 令和6年 3月31日 (3年間)
担 当	電 話 0863-33-5151 E-mail maruisora.5151@tulip.ocn.ne.jp

評価内容の総括	総合評価
本施設のこれまでの実績を基盤として、利用者の個々のニーズへの対応に努め、きめ細やかな支援を強化していくことを主眼に事業を実施しており、指定管理、運営等の実施状況は良好であり、全体としても良好に指定管理を行っている。 * 行数は適宜調節してください。	A

■「総合評価」の評価基準

- S (優 良) 次の3項目の評価結果が全てA以上であり、かつSが2つ以上である。
- A (良 好) 次の3項目の評価結果が全てA以上である。
- B (課題含) 次の3項目の評価結果にBが含まれている。
- C (要改善) 次の3項目の評価結果にCが含まれている。

① 業 務 の 実 施 状 況	評 価 結 果
【適切な施設管理の履行】 障害者地域活動支援センターとして、利用者・利用者家族・支援ボランティア・地域の関係機関の意見を踏まえながら、精神障害のある利用者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう必要な支援を行った。 【法令等の遵守】 障害者総合支援法や岡山県が定める条例、玉野市障害者地域活動支援センター条例等の法令等を遵守し、適切な施設運営が実施できている。 【安全性の確保】 セキュリティ・消防業務等の専門的な業務については、委託業者を用いながら適切に実施している。 【財産の適切な管理】 維持管理は適切に実施している。 【利用状況】 利用契約者は毎年増加。また、年間平均利用者数は平成28年度以降、年々増加している。 【コスト削減への方策】 コスト削減については、支出の8割が人件費関連の支出で、日頃からコスト削減の努力をしているが、これ以上のコスト削減は見込めない。 * 行数は適宜調節してください。	A
② サ ー ビ ス 向 上 へ の 取 り 組 み	評 価 結 果
利用者に対し、個別の日常の相談援助業務を継続するとともに、施設の認知度をあげるための地域交流等イベント等を継続し、サービスの維持向上に取り組んでいる。 * 行数は適宜調節してください。	A
③ 団 体 の 経 営 状 態 （ 経 営 の 健 全 性 ）	評 価 結 果
相談支援事業対応件数増による計画相談給付費収益増等により、経営努力を行っており、黒字経営を継続している。 経験と実績のある専門職者の確保及び年々従業員の昇級も考えなくてはいけない状況に鑑み、財源について玉野市との協議も継続していく必要があるものと思われる。 * 行数は適宜調節してください。	A

■ 「評価結果」の評価基準

- S（優 良） 協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である。
- A（良 好） 協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った内容である。
- B（課題含） 協定書等の基準を概ね遵守しているが、内容の一部に課題がある。
- C（要改善） 協定書等の基準が遵守されておらず、改善が必要な内容である。